

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500167		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホーム長徳	ユニット名	1階
所在地	仙台市泉区長命ヶ丘4-14-14		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 6 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 1 月 28 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの近くには、郵便局、スーパー、公園などがあり、運動を兼ねて買い物や散歩に出掛け気分転換を図っている。また、市民センターや小学校が近くにあり、お祭りや行事に参加させて頂いている。往診、訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージ等を利用し、医療体制が整っている。また、日々の生活の中に体操や運動する機会を作ったり、毎朝体温や血圧測定を行い体調管理をして健康に留意している。食事の楽しみを大切にしており、ご入居者様のご希望を取り入れたメニューや季節感・郷土感のあるメニューを提供している。また、敷地内に 小さい畑を作り、ご入居者様と共に育て収穫する事で、季節感を味わい、新鮮な野菜を取り入れた食事の提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、仙台市地下鉄南北線の八乙女駅から北西にバスで約15分のところにある。法人の企業理念とは別に、ホームの独自理念として「ご入居様本位のご入居様の目線に合わせた良質なサービスを提供致します」と定め、毎朝唱和し理念に沿った支援に努めている。コロナ禍以前は、毎週の外出や、月1回の遠出を楽しんでいたが、現在はホーム近辺の散歩やテレビ視聴等の室内娯楽が主となっている。特に、ご家族参加型の行事は実施困難となっている。外部研修としての仙台市スキルアップ研修等を受講した時は、その結果を全職員に報告し周知している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム長徳 )「ユニット名 1階 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念・会社理念を毎日朝礼にて唱和し、意識付けができており、理念を踏まえた対応についてカンファレンスや全体会議で話し合い実践している。年度毎に各ユニットで目標を設定し理念に沿ったサービスを提供している。	法人理念の他に、ホームの独自理念を創り毎朝唱和している。理念は「ご入居様本位のご入居様の目線に合わせた良質なサービスを提供いたします。」と定め、日々の触れ合いを通して思いを感じ取って対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、町内の行事や市民センターの行事等に積極的に参加している。	長命ヶ丘地域包括支援センターが主催する各種会議や勉強会に参加している。その際に町内会長や民生委員、行政の担当者等との交流がある。ホームや町内会の夏祭り等への参加は当面中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の支援方法について地域包括会議でお話したり、地域の方からのご相談を受け、お話を聞き、他事業所につなげたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は構成員の方に手渡しで資料配布しご意見を頂きサービス向上に活かしている。	会議は偶数月第3火曜日、年6回開催していた。現在は資料配布で入居者の平均介護度や待機者の状況、事故発生状況等を報告している。同時にホーム内の行事等を報告した「長徳通信」が配布され好評である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと連絡を取り合い協力関係を築いている。	市町村や地域包括支援センターとの連携の内容は、殆どがコロナに関連した情報のやり取りである。市が計画する年間研修計画から希望の研修を選定し参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の内部研修を行うと共に、身体拘束についての意識調査を職員に行い、職員の意識付けを行っている。外部研修にも参加し講義内容を全体会議で職員に周知している。	「仙台市スキルアップ研修」等に参加した場合は、受講後研修報告として職員周知をしている。毎月身体拘束苦情委員会を開催し、事例に基づいて臥床の対応やスピーチロックについて話し合っている。職員は拘束のないケアに努め、日中は施錠していない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行うと共に、苦情・虐待委員会で虐待に繋がるアンケート・事例検討等で職員に虐待の理解・防止を意識付けしている。特にグレーゾーンについて深く話し合い虐待防止に努めている。	内部研修は、「虐待の目15項目」を活用している。15項目の事例について、「ちょっと待って」を乱発していないか、「○○ちゃんと呼び捨て」はないかなどを振り返った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い制度について学び、理解を深め、個々の必要性について意見交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解いただけるよう、丁寧な説明を行い、理解・納得を頂いたうえで、同意を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回ご家族様アンケートをお願いし、意見や要望をお聞きすると共に、面会、お電話で頂いたご要望は管理者に繋げより良い運営に反映している。	「コロナ禍で面会できない中でも、本人の様子を知らせてもらい、安心している」との意見をもらった。行事の実施は、家族の要望で日曜日に実施していたが、現在は家族の参加する行事は中止してる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の職員アンケート、全体会議、フロア会議にて意見や提案をしてもらっている。また、施設長と個人面談を年2回行い、個別に聞く機会を作り、反映できる事は反映させている。	コロナ前は外出の日を週1回と決めて、大型ワゴン車を購入して、ユニット単位で月1回全員参加の遠出を実施していた。職員アンケートや個人面談等により要望事項を吸い上げる等の機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握すると共に個人面談を行い、意見等を聞く機会を作っている。また、向上心が持てるように個人目標の設定、外部研修に参加する機会等を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況を把握すると共に内外の研修を積極的に受けられる様、情報を発信している。また、研修参加や資格取得時の勤務調整を行い積極的に参加できるように努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や包括ケア会議等に参加し交流する機会を作っている。	同業者との交流の機会は、地域包括支援センターや行政が計画する研修等がある。他事業所と日常的な相談や確認等は電話連絡が主である。調剤薬局との交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご本人様と面談を行い、要望や不安を傾聴すると共に、関係性作りに努め、安心して生活して頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談、入居申込み時から、丁寧な説明を行い、要望や不安を傾聴し、関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込みの相談時や入居前の面談時にアセスメントを行い、お話を聞き、必要があれば、他サービス利用をお勧めする事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、お手伝い等は、積極的に行えるよう配慮し、お手伝い頂いた時は感謝の気持ちを伝え、暮らしを共にする関係を築く様努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様へのお手紙にて最近の様子をお伝えしている。また、管理者が定期的に電話で変化や状況を報告し共有すると共に、ご意見を頂き取り入れながら、共に支える関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様で散髪、ご家族様への手紙等を今まで行って来た事を継続出来る支援を行っています。	現在コロナ感染症対策で、従来出来ていたことが制約されている。家族面会は令和4年1月以降不可となっている。面会も事前予約で10分以内、飲食無しとなっている。家族への手紙発送支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて行うレクリエーション等を通して、共に行い関わり合う事で、関係性を良好に築ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや退去後に感謝のお手紙を送り、必要に応じてフォロー出来る様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や色々なアプローチの中から希望する事や意向を把握する様努めている。これまでの暮らし方などについて、ご家族様からお聞きし、ご本人様に沿った希望や意向を検討している。	入居者の思いを感じ取り求めていることを推察する。本人本位の対応も日々の触れ合いの中から生まれるとして取り組んでいる。家族との面会機会も殆ど無い事から、入居者との信頼関係に立った対応が求められる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様とのお話しの中から、これまでの暮らしについて把握したり、ご家族様と情報交換を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録し、情報を共有し、カンファレンスで、現状について話し合う事で、共通した現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意見や意向をお聞きすると共に、カンファレンスにて、現状を把握し、意見やアイデアを反映した介護計画の作成に留意している。	介護計画書は、1ヵ月、3ヵ月、6ヵ月と入居者の状況に応じて期間を決めている。入居者の状況に応じて短期、長期の目標や内容を決めている。計画書の見直しがある都度家族へ連絡し、ケアプランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施は日々記録に残し、カンファレンスにて実施状況を確認、把握しながら実践に取り組み、必要に応じて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の主体性、自主性を尊重し、可能な限り柔軟な支援が出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員としての暮らしを楽しむと共に、散歩で季節感を味わい、豊かな暮らしが出来る様支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時、ご家族様からかかるつけ医についてご意向をお聞きしている。本人の状況を客観的に把握し、現状を適切に主治医に伝え、適切な医療が受けられるように支援している。	仙台徳洲会病院と連携し、緊急時の救急搬送等がある。往診は、月に2回「ふるさと往診クリニック」を受けている。「杜の都のはいしゃさん」による2週間毎の口腔ケアがあり、10名程が訪問診療を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師が来所した際に本人の状況を客観的に把握し、気づきや変化を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に病院関係者からの情報収集に努めたり、医師から治療内容や今後についてのお話がある場合は出席させて頂き関係づくりを行うと共に現状把握に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における医療体制指針」及び「看取りに関する指針」を基に十分な説明を行い、その後も、サービス担当者会議にて、ご家族様と話し合う機会を持っている。	富谷訪問看護ステーションと契約し、毎週の訪問がある。重度化や終末期の対応に向けた研修を毎年実施している。ここ2年間は看取りの実績は無い。バックアップ施設として、医療法人徳洲会の「介護老人保健施設シルバーホームいずみ」がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は救急講習を受け、心肺蘇生の流れとAEDの使い方について研修を受けている。また、BCP計画に基づき訓練を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	概ね毎月1回避難訓練を実施し、昼想定・夜間想定を基、ご入居者様が非難できる方法を検討し、訓練を行っている。	ホームの防災対策として、共用部、居室のスプリンクラー設置は完了している。消防署への通報設備も完了している。水、食料の備蓄は5日分である。避難訓練における町内会の役割を避難後の見守りとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護と接遇について、内部研修を行うと共に、声かけや対応について、全体会議やカンファレンス時に注意を促している。	接遇の内部研修を月に1回全体会議で実施している。接遇5原則として「挨拶・身だしなみ・表情・言葉遣い・立ち居振る舞い」にポイントをおいている。入室の際は2回ノックを徹底し、入居者への声掛けは「さん」付けである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築き、思いや希望を表せる環境を整える努力を行い、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた柔軟な支援が出来る様に、働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族様と相談しながら、その人らしい物を揃えており、更衣時にご意見をお聞きし、相談しながら自己決定が出来る様支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力が発揮できる様に声掛けし、職員と一緒に準備や片付けを行い、食についての話題を提供する事で好みや希望をお聞きし、メニューに取り入れている。	コロナ禍での食事は、入居者同士が向かい合わない様テーブルを配置している。入居者の中には、食事のお手伝いを楽しむ方もいる。主食以外で、900～1000カロリーで、ミキサー食4名、刻み食5名である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し提供すると共に、食事量・水分補給量を記録し把握している。水分量が少ない方には、好みの飲み物を準備したり、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせて声掛けを行い、できない部分のお手伝いをしている。口腔内検診を受ける事で、一人ひとりの口腔状態を把握すると共に、ご家族様と相談し、必要に応じて訪問で歯科受診、歯科衛生士を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、把握している。定期的なトイレの声掛け等を行い、自立した排泄にむけた支援をしている。	入居者18名の内、自立が9名でおむつが5名となっているが、排泄チェック表は18名全員を記録している。チェック表による排泄の時間とサインから、先を見越した声掛けをして、トイレでの排泄に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中に運動する機会を作り、個々に応じて、水分が十分取れるように工夫し、予防に取り組んでいる。牛乳提供もしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ほぼ毎日入浴できる体制を整え、ご入居者様が希望する時間帯、タイミングに合わせて、柔軟な対応にて支援している。	週2回の入浴である。入浴拒否の人はいない。リフト浴の設備が無い事から寝たきりの入居者は、2人介助としている。入居者の要望に応じて、入浴剤使用や音楽を流すなど楽しい入浴に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣をご本人様、ご家族様にお聞きしながら取り入れ、気持ちよく休んで頂けるように支援している。日中の活動量を増やし夜間睡眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と相談し薬の目的を把握すると共に、主治医・薬剤師から、薬についての副作用や用法、容量を聞き、職員皆が把握を行い、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、お手伝い等は、積極的に行えるよう配慮し、張り合いや喜びを感じて頂けるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩を行い気分転換を行っている。	コロナ禍において、色々と行動の制約がある事から従来の様な外出は出来ず、外気浴はホームの玄関までとしている。ホーム内の階段を利用したりした軽い体操や、童謡を中心とした歌の時間をつくったり、職員が色々と考えて日常の充実した生活を演出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に合わせて所持したり、買い物時にご自分で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、携帯電話を所持したり、必要に応じてこちらから電話をおかけする支援をしている。手紙のやり取りも支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて飾り物を一緒に作り飾り、居心地良い空間作りをしている。毎日温度、湿度のチェックを行い管理し、快適な空間になるように努めている。テーブルの配置も状況に応じて変更している。	ホールに加湿器3台を稼働させて、居心地の良い共用空間を維持している。ホームでは、入居者はマスクを着用しない生活をしている。コロナ対策の手指消毒等についての不満は見られない。職員と一緒に、共用空間の飾りつけを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて、気の合ったご入居者様同士で、相談室を利用して頂いたり、ソファーやテーブル席を利用して頂いている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が、使い慣れた家具や馴染みのある身の回りの物を持参して頂けるようお願いし、ご本人様が使いやすいように配置を共に考えて使用して頂いている。	冬期間の乾燥対策として、ほぼ全員が加湿器を持っており、エアコンも完備されて適切な温度となっている。それぞれに思い出の調度品が持ち込まれ、家族写真等に囲まれた落ち着いた居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かるような工夫をし、それぞれの歩行能力に合わせて、リビングでの席を工夫したりしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0495500167		
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホーム長徳	ユニット名	2階
所在地	仙台市泉区長命ヶ丘4-14-14		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 6 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 1 月 28 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームの近くには、郵便局、スーパー、公園などがあり、運動を兼ねて買い物や散歩に出掛け気分転換を図っている。また、市民センターや小学校が近くにあり、お祭りや行事に参加させて頂いている。往診、訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージ等を利用し、医療体制が整っている。また、日々の生活の中に体操や運動する機会を作ったり、毎朝体温や血圧測定を行い体調管理をして健康に留意している。食事の楽しみを大切にしており、ご入居者様のご希望を取り入れたメニューや季節感・郷土感のあるメニューを提供している。また、敷地内に 小さい畑を作り、ご入居者様と共に育て収穫する事で、季節感を味わい、新鮮な野菜を取り入れた食事の提供を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、仙台市地下鉄南北線の八乙女駅から北西にバスで約15分のところにある。法人の企業理念とは別に、ホームの独自理念として「ご入居様本位のご入居様の目線に合わせた良質なサービスを提供致します」と定め、毎朝唱和し理念に沿った支援に努めている。コロナ禍以前は、毎週の外出や、月1回の遠出を楽しんでいたが、現在はホーム近辺の散歩やテレビ視聴等の室内娯楽が主となっている。特に、ご家族参加型の行事は実施困難となっている。外部研修としての仙台市スキルアップ研修等を受講した時は、その結果を全職員に報告し周知している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム長徳 )「ユニット名 2階 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念・会社理念を毎日朝礼にて唱和し、意識付けができており、理念を踏まえた対応についてカンファレンスや全体会議で話し合い実践している。年度毎に各ユニットで目標を設定し理念に沿ったサービスを提供している。	法人理念の他に、ホームの独自理念を創り毎朝唱和している。理念は「ご入居様本位のご入居様の目線に合わせた良質なサービスを提供いたします。」と定め、日々の触れ合いを通して思いを感じ取って対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、町内の行事や市民センターの行事等に積極的に参加している。	長命ヶ丘地域包括支援センターが主催する各種会議や勉強会に参加している。その際に町内会長や民生委員、行政の担当者等との交流がある。ホームや町内会の夏祭り等への参加は当面中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の支援方法について地域包括会議でお話したり、地域の方からのご相談を受け、お話を聞き、他事業所につなげたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は構成員の方に手渡して資料配布しご意見を頂きサービス向上に活かしている。	会議は偶数月第3火曜日、年6回開催していた。現在は資料配布で入居者の平均介護度や待機者の状況、事故発生状況等を報告している。同時にホーム内の行事等を報告した「長徳通信」が配布され好評である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと連絡を取り合い協力関係を築いている。	市町村や地域包括支援センターとの連携の内容は、殆どがコロナに関連した情報のやり取りである。市が計画する年間研修計画から希望の研修を選定し参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の内部研修を行うと共に、身体拘束についての意識調査を職員に行い、職員の意識付けを行っている。外部研修にも参加し講義内容を全体会議で職員に周知している。	「仙台市スキルアップ研修」等に参加した場合は、受講後研修報告として職員周知をしている。毎月身体拘束苦情委員会を開催し、事例に基づいて臥床の対応やスピーチロックについて話し合っている。職員は拘束のないケアに努め、日中は施錠していない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行うと共に、苦情・虐待委員会で虐待に繋がるアンケート・事例検討等で職員に虐待の理解・防止を意識付けしている。特にグレーゾーンについて深く話し合い虐待防止に努めている。	内部研修は、「虐待の目15項目」を活用している。15項目の事例について、「ちょっと待つて」を乱発していないか、「〇〇ちゃんと呼び捨て」はないかなどを振り返った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い制度について学び、理解を深め、個々の必要性について意見交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解頂けるよう、丁寧な説明を行い、理解・納得を頂いた上で、同意を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回ご家族様アンケートをお願いし、意見や要望をお聞きすると共に、面会、お電話で頂いたご要望は管理者に繋げより良い運営に反映している。	「コロナ禍で面会できない中でも、本人の様子を知らせてもらい、安心している」との意見をもらった。行事の実施は、家族の要望で日曜日に実施していたが、現在は家族の参加する行事は中止してる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の職員アンケート、全体会議、フロア会議にて意見や提案をしてもらっている。また、施設長と個人面談を年2回行い、個別に聞く機会を作り、反映できる事は反映させている。	コロナ前は外出の日を週1回と決めて、大型ワゴン車を購入して、ユニット単位で月1回全員参加の遠出を実施していた。職員アンケートや個人面談等により要望事項を吸い上げる等の機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握すると共に個人面談を行い、意見等を聞く機会を作っている。また、向上心が持てるように個人目標の設定、外部研修に参加する機会等を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況を把握すると共に内外の研修を積極的に受けられる様、情報を発信している。また、研修参加や資格取得時の勤務調整を行い積極的に参加できるように努めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や包括ケア会議等に参加し交流する機会を作っている。	同業者との交流の機会は、地域包括支援センターや行政が計画する研修等がある。他事業所と日常的な相談や確認等は電話連絡が主である。調剤薬局との交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご本人様と面談を行い、要望や不安を傾聴すると共に、関係性作りに努め、安心して生活して頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談、入居申込み時から、丁寧な説明を行い、要望や不安を傾聴し、関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込みの相談時や入居前の面談時にアセスメントを行い、お話を聞き、必要があれば、他サービス利用をお勧めする事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、お手伝い等は、積極的に行えるよう配慮し、お手伝い頂いた時は感謝の気持ちを伝え、暮らしを共にする関係を築く様努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様へのお手紙にて最近の様子をお伝えしている。また、管理者が定期的に電話で変化や状況を報告し共有すると共に、ご意見を頂き取り入れながら、共に支える関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様で散髪、ご家族様への手紙等を今まで行って来た事を継続出来る支援を行っています。	現在コロナ感染症対策で、従来出来ていたことが制約されている。家族面会は令和4年1月以降不可となっている。面会も事前予約で10分以内、飲食無しとなっている。家族への手紙発送支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて行うレクリエーション等を通して、共に行い関わり合う事で、関係性を良好に築ける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや退去後に感謝のお手紙を送り、必要に応じてフォロー出来る様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や色々なアプローチの中から希望する事や意向を把握する様努めている。これまでの暮らし方などについて、ご家族様からお聞きし、ご本人様に沿った希望や意向を検討している。	入居者の思いを感じ取り求めていることを推察する。本人本位の対応も日々の触れ合いの中から生まれるとして取り組んでいる。家族との面会機会も殆ど無い事から、入居者との信頼関係に立った対応が求められる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様とのお話しの中から、これまでの暮らしについて把握したり、ご家族様と情報交換を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録し、情報を共有し、カンファレンスで、現状について話し合う事で、共通した現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意見や意向をお聞きすると共に、カンファレンスにて、現状を把握し、意見やアイデアを反映した介護計画の作成に留意している。	介護計画書は、1ヵ月、3ヵ月、6ヵ月と入居者の状況に応じて期間を決めている。入居者の状況に応じて短期、長期の目標や内容を決めている。計画書の見直しがある都度家族へ連絡し、ケアプランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施は日々記録に残し、カンファレンスにて実施状況を確認、把握しながら実践に取り組み、必要に応じて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の主体性、自主性を尊重し、可能な限り柔軟な支援が出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員としての暮らしを楽しむと共に、散歩で季節感を味わい、豊かな暮らしが出来る様支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時、ご家族様からかかるつけ医についてご意向をお聞きしている。本人の状況を客観的に把握し、現状を適切に主治医に伝え、適切な医療を受けられるように支援している。	仙台徳洲会病院と連携し、緊急時の救急搬送等がある。往診は、月に2回「ふるさと往診クリニック」を受けている。「杜の都のはいしゃさん」による2週間毎の口腔ケアがあり、10名程が訪問診療を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師が来所した際に本人の状況を客観的に把握し、気づきや変化を伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に病院関係者からの情報収集に努めたり、医師から治療内容や今後についてのお話がある場合は出席させて頂き関係づくりを行うと共に現状把握に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における医療体制指針」及び「看取りに関する指針」を基に十分な説明を行い、その後も、サービス担当者会議にて、ご家族様と話し合う機会を持っている。	富谷訪問看護ステーションと契約し、毎週の訪問がある。重度化や終末期の対応に向けた研修を毎年実施している。ここ2年間は看取りの実績は無い。バックアップ施設として、医療法人徳洲会の「介護老人保健施設シルバーホームいずみ」がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は救急講習を受け、心肺蘇生の流れとAEDの使い方について研修を受けている。また、BCP計画に基づき訓練を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	概ね毎月1回避難訓練を実施し、昼想定・夜間想定を基、ご入居者様が非難できる方法を検討し、訓練を行っている。	ホームの防災対策として、共用部、居室のスプリンクラー設置は完了している。消防署への通報設備も完了している。水、食料の備蓄は5日分である。避難訓練における町内会の役割を避難後の見守りとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護と接遇について、内部研修を行うと共に、声かけや対応について、全体会議やカンファレンス時に注意を促している。	接遇の内部研修を月に1回全体会議で実施している。接遇5原則として「挨拶・身だしなみ・表情・言葉遣い・立ち居振る舞い」にポイントをおいている。入室の際は2回ノックを徹底し、入居者への声掛けは「さん」付けである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築き、思いや希望を表せる環境を整える努力を行い、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた柔軟な支援が出来る様に、働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族様と相談しながら、その人らしい物を揃えており、更衣時にご意見をお聞きし、相談しながら自己決定が出来る様支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力が発揮できる様に声掛けし、職員と一緒に準備や片付けを行い、食についての話題を提供する事で、好みや希望をお聞きし、メニューに取り入れている。	コロナ禍での食事は、入居者同士が向かい合わない様テーブルを配置している。入居者の中には、食事のお手伝いを楽しむ方もいる。主食以外で、900～1000カロリーで、ミキサー食4名、刻み食5名である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し提供すると共に、食事量・水分補給量を記録し把握している。水分量が少ない方には、好みの飲み物を準備したり、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせて声掛けを行い、できない部分のお手伝いをしている。口腔内検診を受ける事で、一人ひとりの口腔状態を把握すると共に、ご家族様と相談し、必要に応じて訪問で歯科受診、歯科衛生士を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、把握している。定期的なトイレの声掛け等を行い、自立した排泄にむけた支援をしている。	入居者18名の内、自立が9名でおむつが5名となっているが、排泄チェック表は18名全員を記録している。チェック表による排泄の時間とサインから、先を見越した声掛けをして、トイレでの排泄に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中に運動する機会を作り、個々に応じて、水分が十分取れるように工夫し、予防に取り組んでいる。牛乳提供もしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ほぼ毎日入浴できる体制を整え、ご入居者様が希望する時間帯、タイミングに合わせて、柔軟な対応にて支援している。	週2回の入浴である。入浴拒否の人はいない。リフト浴の設備が無い事から寝たきりの入居者は、2人介助としている。入居者の要望に応じて、入浴剤使用や音楽を流すなど楽しい入浴に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣をご本人様、ご家族様にお聞きしながら取り入れ、気持ちよく休んで頂けるように支援している。日中の活動量を増やし夜間睡眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と相談し薬の目的を把握すると共に、主治医・薬剤師から、薬についての副作用や用法、容量を聞き、職員皆が把握を行い、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、お手伝い等は、積極的に行えるよう配慮し、張り合いや喜びを感じて頂けるように支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩を行い気分転換を行っている。	コロナ禍において、色々と行動の制約がある事から従来の様な外出は出来ず、外気浴はホームの玄関までとしている。ホーム内の階段を利用したりした軽い体操や、童謡を中心とした歌の時間をつくったり、職員が色々と考えて日常の充実した生活を演出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望に合わせて所持したり、買い物時はご自分で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、携帯電話を所持したり、必要に応じてこちらから電話をおかけする支援をしている。手紙のやり取りも支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて飾り物を一緒に作り飾り、居心地良い空間作りをしている。毎日温度、湿度のチェックを行い管理し、快適な空間になるように努めている。テーブルの配置も状況に応じて変更している。	ホールに加湿器3台を稼働させて、居心地の良い共用空間を維持している。ホームでは、入居者はマスクを着用しない生活をしている。コロナ対策の手指消毒等についての不満は見られない。職員と一緒に、共用空間の飾りつけを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて、気の合ったご入居者様同士で、相談室を利用して頂いたり、ソファやテーブル席を利用して頂いている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が、使い慣れた家具や馴染みのある身の回りの物を持参して頂けるようお願いし、ご本人様が使いやすいように配置を共に考えて使用して頂いている。	冬期間の乾燥対策として、ほぼ全員が加湿器を持っており、エアコンも完備されて適切な温度となっている。それぞれに思い出の調度品が持ち込まれ、家族写真等に囲まれた落ち着いた居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かるような工夫をし、それぞれの歩行能力に合わせて、リビングでの席を工夫したりしている。		